



サステナビリティの道のり

2024年のボルカフェの取り組み





はじめに

ボルカフェは、25カ国以上で多様なコーヒーを調達し、世界中のお客様にお届けしています。ボルカフェは、中南米、東アフリカ、アジア太平洋に広がる15の生産国のネットワークを通じて、コーヒーの未来が多様な生産者に支えられていることを知っています。

ボルカフェは170年以上にわたってコーヒー生豆に携わってきた企業として、この貴重な作物の栽培において農家が直面するさまざまな問題を認識しています。気候の変化、農業慣行の変化、価格の変動と市場へのアクセス、そして根強い社会的・構造的課題のすべてが、農家の仕事と生活を複雑にしています。しかし私たちは、的を絞った支援がこうした課題の解決に大きく貢献し、農家がコーヒーによって安定的で強靱なビジネスを構築できるようになる例を数多く見てきました。

ボルカフェのサステナビリティ戦略は、ボルカフェ・ウェイ農家支援プログラムの250人以上の現場スタッフによって支えられており、コーヒー農家が現代のコーヒー産業の課題を克服できるよう支援することを目的としています。ボルカフェのサステナビリティ戦略は、「持続可能な収益性」、「再生可能な実践」、「責任ある市民活動」の3つの柱で構成されており、ボルカフェと農家との日常的な関わりを導き、ロースターのお客様とともに、コーヒー・コミュニティに有意義な影響を与える活動を行うことを可能にしています。

このレポートでは、世界各地で行われているこれらの活動をご紹介します。これらの活動は、スケールアップ可能なモデルであり、再現可能なソリューションです。ボルカフェでは、お客様やその他のステークホルダーの皆様と、持続可能なコーヒービジネスの発展に向けてどのような協力ができるかを話し合う機会を楽しみにしています。

目次

- 5** — 進歩の1年
- 6** — 持続可能な収益性
- 14** — ホンジュラスの新しい水洗工場
- 16** — 再生可能な農法
- 28** — ウガンダでの気候変動に配慮した取り組み
- 30** — 責任ある市民活動
- 38** — ペルーでの農業研究開発
- 43** — お問い合わせ

進歩の1年

グローバル・サステナビリティ・ディレクター
Raphaelle Peinado氏からのご挨拶

サステナビリティは、ビジネスの中核を占めるようになりました： 変化する気候、社会経済的な変化、進化する規制の状況といった動きのすべてが、環境、社会、ガバナンスの要請を統合した新しい取り組みを求めています。一方で、新たな課題が革新的な解決策を促すことも少なくありません。

ボルカフェのビジョンは、すべての人のために繁栄し、持続可能なコーヒー業界を構築することです。これには、コーヒー農家やロースターの需要に応え、相互発展を促すパートナーシップを築き、新しいコンセプトや技術を取り入れることが含まれます。

この冊子では、この1年のビジョンの実現に向けた進捗状況をご紹介します。コーヒービジネスをより良いものにするためのアイデアやご相談をお待ちしております。



**新たな課題は、
しばしば
革新的な
解決策を促します**

持続可能な収益性

農園主が努力によって相応の見返りを得ることができれば、農園をより広く改善し、持続可能なものにするために投資することが奨励されます。もし彼らの努力が確実に報われなければ、農園を維持する動機がなくなってしまいます。

ボルカフェ・ウェイは、「農業はビジネスであり、良いやり方を実践することで目に見える改善と報酬を得ることができる」という考え方を取り入れています。

ボルカフェ・ウェイは、記録管理の改善やコスト削減から、歩留りや品質を向上させる農法に至るまで、こうした農法を実践するためのトレーニングやアドバイスで農家を支援しています。また、ジェンダー平等の促進や子どもたちの保護など、社会的構造的課題の根本原因を掘り下げるプロジェクトや活動も支援しています。これらはすべて、持続可能な収益性を達成するための基盤作りにつながります。

高品質なコーヒーはより良い価格で取引され、認証基準の基準を満たした農園は、さらにプレミアムを得ることができます。ボルカフェは、4C、フェアトレード、オーガニック、レインフォレスト・アライアンスなど、有名な持続可能性認証の多くに積極的に参加しており、2024年中も、ボルカフェ・ベリファイド（Volcafe Verified）とボルカフェ・エクセレンス（Volcafe Excellence）のバリューチェーンを、責任ある自社調達を提供に加えました。責任ある調達とそれが意味するパートナーシップは、農家が持続可能な収益性を達成する機会を増やします。

持続可能な収益性という概念を通じて農園への投資、コスト、収益をより総合的に結びつけることで、同じ農園でより高い歩留りが得られ、同じ農家がより高い収入を得る例を数え切れないほど見てきました。次のページでは、持続可能な収益性への移行について、いくつかの側面を探ります。

農民とその家族のまともな生活を確保することを目的としたこのサステナビリティ戦略の柱は、以下の方針に重点を置いています。



1. ビジネスとしての農業



2. 品質向上



3. 責任ある調達

ビジネスとしての農業

ボルカフェにとって、農業はビジネスであるというのが基本的な考え方です。農家は起業家であり、記録管理やコスト管理の改善、持続可能な農業手法、安定した品質の重視など、優れた実践を行うことでビジネスを成長させることができると私たちは知っています。

ボルカフェ・ウェイ農家支援プログラムでは、11の生産国で250人以上の現場技術者を含め、45,000人以上のコーヒー農家に直接技術支援とトレーニングを実施しています。ボルカフェ・ウェイはまた、700以上のビジネスモデル農園のネットワークを促進し、たとえボルカフェのサプライヤーでなくても、農園が新しい技術や方法を間近で見ることができるようになっています。

2024年、ボルカフェ・ウェイの技術者たちは、森林管理法、土壌の健全性、コーヒーの若返りと植え替え、農薬の安全な使用、児童労働の防止、ジェンダー平等の推進など、さまざまなテーマについて実践的なアドバイスや研修を行いました。これらの研修は、グループ研修から、技術者が農園で農民と一緒に何時間も過ごす個別農場訪問まで、多岐にわたります。

ブラジルに話を移しましょう。「コーヒーとマネジメント」プロジェクトは、2024年に29の小規模・大規模コーヒー農家と協力し、彼らの経営に優れたビジネス慣行を適用しました。このプロジェクトでは、ボルカフェ・ウェイ技術者が参加農園を毎月訪問し、農園の財務管理を改善するための診断と行動計画を共同で策定します。農園では、同業者が集まり、互いの農園の分析について話し合い、新品種や剪定による作物の改良、収穫コストの削減方法など、改善の可能性を評価します。私たちの技術者は、安定した強靱な未来に向けた正しい道筋を見出すことに重点を置きながら、データの解釈や意思決定において農園を支援します。



ブラジルでデータを分析する農民と技術者



ベトナムの農家への研修

品質向上

高品質なコーヒーほど高値で取引されるため、農家の品質向上をサポートすることは、持続可能な収益性を実現するための重要なポイントです。収穫直後のコーヒーチェリーを適切に乾燥させることは、最終製品にとって非常に重要です。ボルカフェは、コーヒー本来の品質を保つために、さまざまな技術やツールを使って農家をサポートしています。

タンザニアでは、収穫の最盛期には農協（AMCOS）が乾燥に使用するアフリカンベッドの問題にしばしば悩まされます：大量の完熟チェリーがアフリカンベッドの容量を超え、ボトルネックとなるのです。これは、厳しい日差しの下での迅速な乾燥や、新しく入荷するチェリーのスペースを確保するための最適でない状態での保管により、コーヒーの品質が損なわれる可能性があります。この課題に取り組むため、テイラーウィンチ社のタンザニアチームは2024年に提携先と協力して農協のために10台以上の新しいアフリカンベッドを設置し、北部と南部のアフリカンベッドの総数を55台に増やしました。新しいアフリカンベッドは、旧モデルに比べて耐久性が高く、大量のコーヒーを収納できるため、品質が向上し、最終的に農家の収入が増加します。

ペルーのハエン地方では、私たちのチームが竹製の集中型天日乾燥機を建設し、シュンバの水洗工場を強化しました。ポートランド・コーヒー・ロースターズ様が資金を提供したこの新しい施設では、周辺地域の25の農家が温室のような屋内でコーヒーを乾燥させることができます。



タンザニアのアフリカンベッド

コーヒーを劣化させる湿気や害虫にさらされるのを抑えることで、天日乾燥機は費用対効果が高く、信頼性が高く、品質を向上させる再現可能な手段であることが証明されています。ペルーのボルカフェ・ウェイ・チームは、2021年以来、農家が800台以上の天日乾燥機を建設するのを支援してきました。



パプアニューギニアでは、国内チームがモロベ州とイースタン・ハイランド州の農家に1,000枚以上のコーヒー乾燥シートを配布しました。防水シートは、コーヒーが乾燥する際に地面と接触しないようにすることで、品質の向上を支えています。同時に、コーヒーの木の剪定や若返りに関するトレーニングやアドバイスを農家に提供し、生産性と歩留りの向上を支援しています。



また**中国**では、雲南ボルカフェ社のチームが200人の農家に乾燥機の使い方や、品質を安定させ向上させるその他の乾燥技術について研修を行いました。

責任ある調達

農家にとって、サステナビリティ規格の要件を満たすことは、持続可能な収益性へのもうひとつの道となります。ネスプレッソAAA、C.A.F.E.プラクティス、レインフォレスト・アライアンス、フェアトレード、オーガニック、4Cのような有名な認証制度やサステナビリティ規格、またはボルカフェ RS (Responsible Sourcing) プログラムのような自社規格のいずれであっても、基準を満たした農家は、コーヒーにプレミアムをつける資格を得ることができ、彼らの生活を向上させることができます。

ボルカフェでは、ボルカフェ・ベリファイドやボルカフェ・エクセレンスのバリューチェーンを構築することで、ボルカフェRSの拡大を続けながら、多くの主要認証と連携しています。これらの取り組みに共通するのは、農園での生活向上、環境保護、社会的進歩の促進に重点を置いていることです。

ボルカフェの2024年度には、全世界でボルカフェの総取引量の40%が、認証や独自のボルカフェRSプログラムを通じて責任ある方法で調達されたコーヒーでした。また、これらの取り組みにより、EU森林破壊規制 (EUDR) などの新たな法規制への対応にもつながります。

2024年には、責任ある調達先バリューチェーンの拡大の例として、中国の関係会社が雲南省の200のコーヒー農園と協力してレインフォレスト・アライアンス認証を取得し、500 トンのコーヒーを認証することに成功しました。また、コロンビア、グアテマラ、ホンジュラス、ペルー、ベトナムなどの生産国でボルカフェRSのバリューチェーンの数を増やすための大規模な取り組みも行いました。

責任を持って調達された2種類のコーヒー



ボルカフェ・ベリファイドとボルカフェ・エクセレンスについては volcafe.com をご覧ください。



ホンジュラスのコーヒー生産者に サービスと確実性をもたらす新しい水洗工場

中米のホンジュラスにあるボルカフェの会社、モリノス・デ・ホンジュラス社は、中間業者を介さない直接購入や、ボルカフェ・ウェイ・プログラムによる技術アドバイスやトレーニングの提供など、農家との距離を縮めることに以前から力を入れてきました。モリノス・デ・ホンジュラス社のチームが農家にアプローチするもうひとつの方法は、主要コーヒー生産地に水洗工場などの加工インフラを建設することです。

農家がコーヒーチェリーを近くの水洗工場に持ち込み、洗浄・加工することで、農家は大きな恩恵を受けることができます。近くでコーヒー豆を精製することで、農家は時間を節約し、輸送コストを削減することができます。また、収穫後すぐに、害虫や風雨にさらされる前に、最高の品質のコーヒー豆を収穫することができます。その結果、農家はより良い価格でコーヒーを購入することができるのです。

2024年、ホンジュラスのモリノス・デ・ホンジュラスは、コーヒー焙煎業者のシュトラウスとの提携により、効率性と持続可能性の向上を目指して、老朽化したカハ・ルーラル・スヤパ水洗工場の近代化を行いました。水洗工場は、完熟したコーヒーチェリーを加工してコーヒー「豆」を取り出す場所ですが、新しい水循環システム、天日乾燥機、コーヒーの果肉（種を取り出すために取り除かれる殻）を保管する専用倉庫が設置されました。この新しい設備により、水の使用量と廃棄物の管理が改善され、1時間当たりの処理能力が2倍になりました。

ホンジュラスのチームはまた、エル・パライス州にある新しいエル・チレ水洗工場を2024年に稼働させました。ロースター・パートナーのスターバックス社の支援で建設されたこの水洗工場は、数百のコーヒー農家にとって効率的な加工を身近なものにします。この水洗工場は、農園でさまざまな工程を経て生産されるコーヒーよりも均一な製品を生み出します。その均一性がコーヒー全体の品質に重要な影響を与え、農家の収益を向上させます。同時に、エル・チレ水洗工場では残ったパルプと水の処理を合理化し、周辺地域への流出を防いでいます。水洗工場では、1時間に9,000キロ以上のコーヒーチェリーを処理できる能力を備えています。

モリノス・デ・ホンジュラス社は、収穫のたびにコーヒー生産者に新たなサービスと確実性を提供するという取り組みの一環として、来年にも水洗工場を建設する予定です。



ホンジュラス、エル・チレ工場



スヤパ工場の改修工事

再生可能な農法

コーヒーやその他の作物を栽培するために、農家は土地を頼りにしています。持続可能な収益性は、農園が国内条件や生態系の現実にも適応していなければ、真に達成できるものではありません。気候の変化に直面するなか、農園とその未来を守るために農家ができる実践的な手段があります。

私たちのサステナビリティ戦略の第二の柱は、気候変動と闘うための再生可能な農法を重視することです。万能な取り組みはありませんが、農園は土壌の健全性、農園の生産性、生物多様性の保護に貢献しながら環境負荷を低減する再生農法のツールを選ぶことができます。これらの農法は必ずしも直感的でわかりやすいとは限らず、どの農家にとっても、新しく馴染みのない農法を取り入れることは、信念の飛躍となる可能性があります。

ボルカフェ・ウェイの農業技師チームは、農園の回復力を高め、二酸化炭素を削減し、生物多様性を促進する再生可能な実践方法の適切な組み合わせを選択できるよう、現場で何万もの農園をサポートしています。技術者たちは農園を訪問して農家と直接対話し、優れた実践を示すモデル農園のネットワークを支援し、新しい取り組みを広く普及させるための研修を提供しています。

ボルカフェは企業として、このような気候変動に関連したシフトを自社のオペレーションに反映させる取り組みも行っています。2024年には、世界中のボルカフェのチームが、2025年末から適用される、コーヒーを含むいくつかの製品に関連する森林破壊に対処することを目的とした欧州連合森林破壊規制

(EUDR) に向けて、さまざまな準備を行いました。この全社的な取り組みには、社内システムの改善、リスクマッピングの強化、農家とのエンゲージメントの強化などが含まれます。

次のページでは、ボルカフェが農家に再生可能な手法を導入し、気候変動への対応力を向上させるための支援についてご紹介します。

気候変動との闘いに焦点を当てたサステナビリティ戦略のこの柱には、
以下のような要素が含まれています：



1. 回復力のある農園



2. 炭素削減



3. 生物多様性の保護

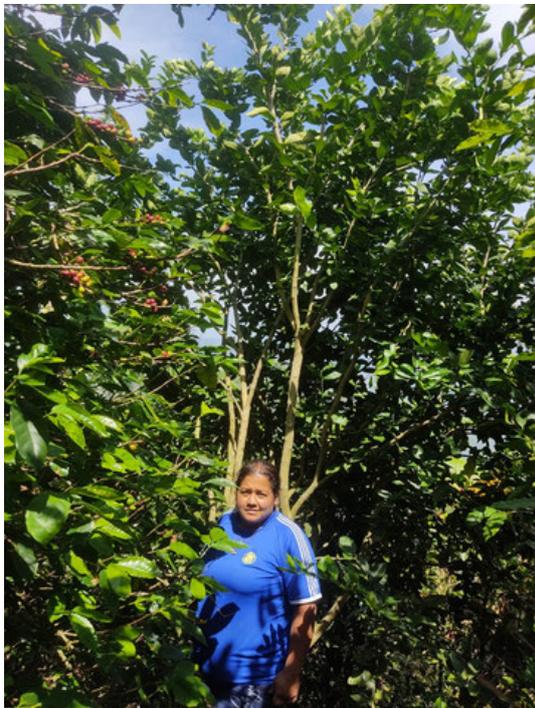
回復力のある農園

気候変動は、コーヒー農家にとって常に進化し続ける難題です。天候パターンの変化により、ある季節は干ばつに見舞われ、次の季節は霜や洪水に見舞われます。害虫や植物の病気は新しい地域に広がりつつあり、一昔前の栽培方法が今では通用しなくなるかもしれません。コーヒー農家が将来にわたって繁栄していくためには、こうした課題に直面して農園の回復力を高める取り組みを取り入れる必要があります。ボルカフェは長年にわたり、農園がこうした重要な変化を遂げるための技術や資材の実証と普及に取り組んできました。昨年実施した数多くの取り組みの中から、具体的な事例をいくつかご紹介しましょう。

コロンビアでは、私たちのカルカフェ社のチームがアンティオキアのコーヒー生産農家400世帯と協力し、国際市民社会組織ソリダリダード（Solidaridad）とのパートナーシップのもと、農園でコーヒーの植え付けと森林管理法を組み合わせました。これにより、1万4,000本以上の木陰や果樹（21種の在来種）が新たに植えられ、土壌の回復、食糧安全保障の向上、そしてコーヒーの木の成長を支えています。新しく植えられた木々は農園で炭素を吸収し、非営利団体ACORNと金融機関ラボバンク（Rabobank）との提携により、農園はカーボン・クレジットを生成・販売できるようになりました。私たちのチームはまた、農園に水処理システムと堆肥ピットを設置し、化学物質の流出とメタン排出を削減する支援も行いました。

ウガンダでは、私たちのグループ姉妹会社が地球環境ファシリティ（GEF）およびネスプレッソ社と提携し、マサカ地域の零細コーヒー農家2,200軒の収入と回復力を向上させました。プロジェクトの一環として、間作やアグロフォレストリーなどの再生農法を近隣農家に実証するため、35のモデル農園が設置されました。モデル農園は、さまざまなテーマ（総合的な土壌肥沃度管理からジェンダー平等まで）に関する研修を実施するためのフィールドスクールとしても機能しています。

アグロフォレストリーを実践するコロンビアの農家たち



ケニアでは、現地法人テイラー・ウィンチ社がマチャコス地域のボルカフェ・ウェイ・ビジネスモデル農園を支援し、カバークropp（土壌浸食を防ぎ土壌中に有機物を加えて土壌改良に役立つ作物）やマルチングなどの再生手法を導入しました。この取り組みでは、コーヒーの畝間にブルーグラスを植え、後で収穫してマルチング材として利用します。

マルチングは保湿、土壌肥沃度の向上、除草剤を使用しない雑草抑制の効果があります。こうした手法を適用することで、コーヒーの生産性を向上させることができます。この農園では、その結果、コーヒー1株あたりの歩留りが最大50%向上しました。このモデル農園で展示されている技術は、その地域の他の農園でも再現することができ、気候変動の影響を受ける地域で再生農業の知識をより広く普及させることができます。

もうひとつの革新的な取り組みとして、**コスタリカ**のチームは農業研究・研修機関であるCATIEと協力して、再生農業を促進するハイブリッド・コーヒーの苗木を開発しています。この苗木は、葉さび病、ミミズ、病気などの問題に対してより耐性があるため、生産性を高めると同時に、農薬の使用量を減らすことができます。ボルカフェ・コスタリカは、病害虫の影響を受けやすくなった老朽化したコーヒー農園の再生を支援する再生農業パッケージの一環として、150の農家に26,000本以上の苗木を届ける予定です。

26,000本

配布されたコスタリカで
抵抗性ハイブリッドコーヒーの苗木本数



ケニアにおけるブルグラスによるカバークロープ栽培



コスタリカにおけるハイブリッド品種の開発

炭素削減

ボルカフェは、コーヒーのサプライチェーンにおける温室効果ガスの排出を大幅に削減する可能性のあるプロジェクトを設計するために、詳細なCO₂排出量計測とライフサイクル分析の調査を行ってきました。その結果、排出量のかなりの部分が農園で発生していることがわかりました。これは、私たちがコーヒー農園における再生可能な農法を重視するもうひとつの理由です。これらの実践は、農園からの炭素排出を削減するのに役立つだけでなく、そうすることによって、コーヒーの未来を脅かす気候変動の最悪の影響も回避することができます。これは明らかに双方にとって有益な状況になります。

コロンビアでは、カルカフェ社のチームが農家と協力して、さまざまな方法で炭素の分析・削減に取り組んでいます。その取り組みの一環として、ウイラ州の10軒の農家が参加する実証実験では、農園における排出源を探り、的を絞った介入と効率改善を通じて排出量を削減するための作業計画を策定しています。これには、土壌分析、作物のニーズに合わせた栄養計画、堆肥化を改善するための微生物利用の研修などが含まれます。カルカフェ社から寄贈された廃水処理インフラも、この実証試験で役割を果たしています。

このプロジェクトで最も注目を集めているのは、バイオ炭でしょう。農家は、バイオマス廃棄物を利用してバイオ炭を作る方法について研修を受けました。バイオ炭は、土壌の健全性を高めるだけでなく、地中に炭素を閉じ込める添加物でもあります。バイオ炭は、カーボン・クレジットを生み出す新たな可能性を開きます。この場合、クレジットは経済的インセンティブ、バイオ炭、そしてパートナーであるCotierra社のバイオ炭の製造と使用に関する技術指導と交換されます。

これらの技術を他の持続可能な農法と組み合わせることで、農家はより多くの収入を得ることができ、農園の回復力を高めると同時に、排出量を削減し、炭素を隔離することができます。





バイオ炭を手にするコロンビアの農家

生物多様性の保護

気候の変化に伴い、生物多様性の保全と促進はますます農業の一部となっています。農薬や除草剤の使用を制限したり、廃棄物管理を徹底して循環型社会を推進したり、野生動物が繁栄できる環境を整備したりと、以下の事例は、適切に運営された農園がいかに環境への影響を削減し、周囲の生態系に好影響をもたらすかを示しています。

農薬の使用によって土壌の肥沃度が低下しがちな**コスタリカ**では、効率的な雑草管理がますます重要になっています。2024年、ボルカフェ・コスタリカは、ネスプレッソが推進し、共同出資した再生圃場に焦点を当てたパイロット・プロジェクトを実施しました。農薬の削減は人件費の増加を意味するため、このパイロット・プロジェクトでは、農家が雑草をより効率的に管理できるよう、専門の刈り込み機も寄贈しました。この試験には、610ヘクタール以上の農園で150人の革新的なコーヒー生産者が参加しています。

ボルカフェの**ベトナム**における合併会社ダクマンは、健康と公害に関するグローバル・アライアンス（Global Alliance on Health and Pollution）および英国国際開発（UK International Development）と共同で、ベトナムの小規模・大規模農園における農薬の誤用や過剰使用の原因となる総合的病害虫・雑草管理（IPM）の障壁を調査するプロジェクトを実施しました。このプロジェクトは、IPMの導入と農薬使用の現状、環境と人の健康への影響を調査するとともに、IPMを促進するための研修資料を作成しました。プロジェクトでは、10人の主要トレーナーを配置し、ワークショップや研修を通じて500人の農家にIPMの実施を支援しました。実践を紹介するために2つのデモ農園を設置し、参加農家には果樹や日陰樹を提供して農園に植え、生物多様性を向上させました。



剪定師がコスタリカの農薬使用削減に貢献

コロンビアのボルカフェ・グループであるカルカフェは、廃棄物管理を改善するために400軒の農家を支援してきました。農園に水処理システムを設置することで、農家はコーヒー加工から出る残留水をろ過し、周辺地域への流出による潜在的な害を減らしています。同時に、農園は堆肥化ピットを増設し、コーヒー加工から排出されるメタンの削減にも貢献しています。

グアテマラでは、国内企業のピーター・シェーンフェルドが2019年から非営利団体パンテラと提携し、シエラ・デ・ラス・ミナス山脈の自然生息地を保護するプロジェクトを進めています。このプロジェクトは、農園とその周辺の生物多様性を高める果樹を配布し、その過程で国内の野生動物を助けるために、コミュニティ苗床を設置する75の農家と協力しています。このプロジェクトの遠隔カメラによって、アルマジロ、コヨーテ、マーゲイ、多くの鳥類、さらにはピューマなど、30種以上の動物が撮影されました。このカメラはまた、夜行性のキンカジュー／ミコレオンという、以前はこの山岳地帯に生息することが知られていなかった小型哺乳類の存在を明らかにするのにも役立ちました。

これらの例が示すように、農家は生物多様性を促進するための解決策の一部になり得るのです。

30+

グアテマラのプロジェクト地域で
記録された動物の生体種数

左上から時計回りに：グアテマラのシエラ・デ・ラス・ミナス地域で目撃された
コヨーテ、アルマジロ、ピューマ、キンカジュー



ルウェンゾリの農家にとって前進となる、 気候変動に配慮した総合的な取り組み

ボルカフェのウガンダ法人であるチャガラニ・コーヒー社（Kyagalanyi Coffee Ltd）、国際金融公社（IFC）、ネスプレッソは、世界でも希少なコーヒー品種を保護しながら、コーヒー生産コミュニティの持続可能で回復力のある包括的な生計を促進するためにパートナーシップを組んでいます。

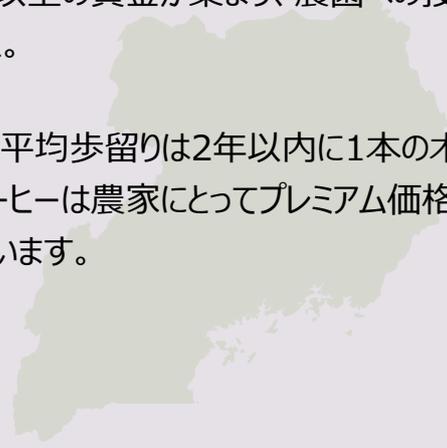
このプロジェクトは、ルウェンゾリ山地の零細農家3,300戸を支援し、気候変動に配慮した農法やその他の技術を通じてコーヒー生産を向上させるものです。価格プレミアムやその他のインセンティブは、コーヒー農園での再生農法の適用による生産性の向上を支援し、より広範なコミュニティ開発イニシアティブには、ジェンダー平等トレーニングや、金融へのアクセスを可能にする村の貯蓄貸付組合（VSLA）への参加などが含まれます。

生産者が農園をビジネスとして運営するのを支援するため、パートナーは金融に関する知識や記録の管理に関する研修を実施しました。女性農家は、コーヒー生産に従事するための追加的な支援と情報を受けています。

このプロジェクトの補完的な取り組みにより、農家は顕著な進歩を遂げることができました。参加者は、貯蓄の重要性、予算の立て方、意思決定における財政的配慮について、認識を深めています。今では多くの世帯が、家畜の飼育、石鹼作り、コーヒーの取引、接客サービス（イベント用の椅子やテント、道具のレンタル）などの副収入を得る活動に取り組んでいます。

76の農家が運営するVSLAには85,000 USD以上の資金が集まり、農園への投資を希望する会員に1,065件の融資が行われました。

また、再生技術に重点を置いた結果、コーヒーの平均歩留りは2年以内に1本の木あたり2.9kgから3.9kg以上に増加しました。このコーヒーは農家にとってプレミアム価格で取引され、地域社会にさらなるチャンスをもたらしています。





ルウェンゾリの農家とのVSLA研修



責任ある市民活動

農家は孤立して暮らしているわけではありません。彼らには家族があり、近隣の人々にアドバイスやサポートを求め、子どもたちを手前の学校に通わせ、地元の診療所を訪れ、地域の企業と買い物や取引をします。

ボルカフェは多くのコーヒー産で活動しているため、私たち自身もこうした地域社会の一部であると考えています。ボルカフェにとって、サステナビリティ戦略の3本目の柱である責任ある市民活動とは、**繁栄するコミュニティを育む**取り組みの信頼できるパートナーとなることです。

ボルカフェは、農家との協働やお客様とのパートナーシップを通じて、地域社会のニーズに応えるプロジェクトでコーヒーコミュニティを支援します。このような活動には、農業家族の潜在能力を最大限に引き出すためのジェンダー平等の促進、児童労働のリスクを軽減し、子どもたちが視野を広げる機会を確保するための教育促進、農園やコーヒー労働者、その他の地域住民のニーズを満たすための国内保健インフラの支援といった形があります。これらすべての中心は、農家の生活向上と再生可能農業による気候変動対策という私たちの活動を補完する、**コーヒー・コミュニティの社会経済的進歩へのコミットメント**です。

ボルカフェは、企業として、コーヒー業界における実践と成果の向上を促進するために、セクター別の取り組みや 持続可能性スキームにも参加しています。例えば、2024年には、コーヒーのサプライチェーンにおける児童労働の撲滅に向けた国際労働機関（ILO）の「児童労働プラットフォーム」に参加しました。

次のページでは、これらのプロジェクトのいくつかを詳しく紹介し、**的を絞った支援**がもたらす変化を紹介します。

コーヒー産業が直面する社会経済的な課題に対応するため、サステナビリティ戦略のこの柱には以下のようなトピックが含まれています：



1. ジェンダー平等



2. 教育



3. 健康

ジェンダー平等

ボルカフェでは、女性コーヒー生産者がコーヒー生産においてより積極的な役割を果たすための手段として、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントの推進に取り組んでいます。女性は家族の日常生活において極めて重要な役割を担っており、食料の資源配分や支出の監視といった財政管理を行う一方で、子どもたちの教育にも積極的に取り組んでいます。以下では、昨年私たちが実施したプロジェクトの中から、コーヒーのジェンダー的側面を重視したものをいくつか紹介します。

タンザニアでは、南部地域の4つの新しい女性グループとワークショップを開催し、女性の参画を強化しました。4つの異なる農家協同組合から5人の女性が参加し、コーヒー農業、品質向上、金融リテラシーについて貴重な知識を得ました。このプロジェクトは、コーヒー生産に女性を参加させて収入を増やし、雇用機会を創出し、経済的自立を通じて自信をつけさせ、最終的には地域社会で力をつけることを目指しています。



タンザニアの女性コーヒー生産者向けワークショップ

「女性たちとの仕事はいつも楽しいものです。彼女たちは学ぶことに熱心で、コーヒーの品質向上に尽力しています。自分たちの農園を始めるための苗木を受け取ることは、有意義で感動的な前進でした」

Rosalia Mkungilwa氏、アシスタント・トレーダー、タンザニア

コスタリカでは、フィンランドのロースター、パウリグ社との提携により、女性生産者がビーン・ボヤージュ（Bean Voyage）のトレーニングに参加しました。

彼女たちは事務処理能力を身につけ、修了後はベンチャー企業を立ち上げるための資金援助を受けました。

ウガンダのマサカ地方では、現地グループ会社チャガラニー社がGEF(地球環境ファシリテーター)とネスプレッソと共同で実施したプロジェクト（19ページ参照）でも、49人のチェンジ・エージェントの採用と研修を支援し、農園で88の村の貯蓄貸付組合（VSLA）の設立に貢献しました。チェンジ・エージェントは1,000軒以上の家庭を訪問し、VSLAネットワークを通じてジェンダー平等や金融リテラシーなどのテーマに関する研修を実施しました。これまでに600以上のVSLA会合が開催され、メンバーが家計改善に投資できる資金を利用できる新たな道が開かれました。

グアテマラでは、コーヒー産業は男性が多く占めてきたため、ジェンダー平等に対する大きな課題が生じていました。コーヒーの生産において女性は労働力の70%を担っているにもかかわらず、土地、信用、情報へのアクセスが制限されているなど、しばしば制度的な障壁に直面しています。ウェウエテナンゴ地区とクブルコ地区の女性農家だけで生産されるコーヒー「ラ・モレナ」は、この業界における女性のエンパワーメントを浮き彫りにしています。ボルカフェ・ウェイ・プログラムの支援を通じて、これらの農家はコーヒーの品質を向上させ、歩留りを増やし、収入を増やし、農園を実行可能なビジネスに変えました。



グアテマラの女性コーヒー生産者



レモリーノの改築された学校



レモリーノの学校周辺のフェンス

教育

教育や学習の機会を得ることは、子どもたちとその家族に多くの展望を開きます。子どもたちが学校へのアクセスを奪われたり、学校へ行くための安全でない経路に遭遇したりすると、こうした重要な形成的経験を逃すリスクが高まります。このような状況下では、児童労働やその他の搾取に巻き込まれる可能性も高まります。ボルカフェでは、この問題を最も深刻に捉えています。以下では、この重要な問題に取り組むために、昨年実施したいくつかの取り組みの概要をご紹介します。

長年のパートナーであるコスタ財団と協力し、コーヒー生産地域の支援に重点を置いていることから、コロンビア、ペルー、ベトナムにおいて、学校建設や教育支援を通じて教育へのアクセス改善に取り組んできました。

コロンビアのナリーニョ県でトップクラスのコーヒー生産量を誇るタミナング県にあるエル・レモリーノ学校では、周辺地域から集まった460人の生徒が学んでいます。違法作物や麻薬の密売ルート沿いに位置するため、レモリーノ、特にこの学校は治安の悪さに直面しており、介入すべき重要な地域となっています。2020年には、老朽化した8つの教室の入れ替えを行い、2024年には、子どもたちの安全性を高めるためのフェンス建設に資金を提供しました。学校コミュニティ全体がキャンパスの変貌に満足しています。

ベトナムでの同様の取り組みでは、未就学児のための保育園を建設しました。この施設には、インターネットへのアクセス、施設内の給排水システム、改善された電力を備えた教室があります。2024/2025年度には500人の子どもたちが入学しました。村の家族は、子どもたちをこの新しい学校に通わせる機会を得たことに深く感謝しています。ベトナムの多くの農村部では、公用語であるベトナム語は中学生から必修ですが、集落では必ずしも教えられておらず、話されていません。就学前の早い時期から公用語を教えることは、子どもたちの発達や教育、将来の展望に大きく貢献します。

ペルーでは、ボルカフェ・ペルーのコスタ財団との提携から創設された8番目の学校として、最大110人の生徒を収容する初等・中等教育機関であるハルキージャ学校が2024年3月に開校しました。式典では、スピーチ、音楽演奏、祈祷式、テープカットが行われました。出席者はお祝いのランチを楽しみ、子どもたちは教室、洗面所、オフィス、キッチン、メディア図書館、多目的スペース、屋外スポーツ施設を備えた新しい学校を探検しました。



健康

ボルカフェは、安全な飲料水と衛生設備へのアクセス改善、ヘルスケアの推進、栄養改善、地域社会の社会生活の向上に取り組んでおり、これは持続可能な発展と幸福を育むために不可欠です。ここでは、生活の質を向上させ、より強く健康的なコーヒーコミュニティを築くための総合的な取り組みの例をいくつかご紹介します。

グアテマラでは、スタンプタウン社との連携の一環として、バハ・ベラパスのクブルコにあるXolaij(シヨライフ)村の学校にキッチンを建設しました。この学校は74人の生徒に初等教育を提供しており、そのほとんどがコーヒー農家の子供たちです。新しい厨房は病気のリスクを大幅に減らし、栄養状態を改善することで、地域社会全体の健康と福祉を向上させます。

パプアニューギニアの健康と就学率の向上を目指して、ボルカフェは複数の焙煎業者と協力して、28,000人以上の生徒が通う100校以上の学校で衛生プログラムを実施しました。このプログラムでは、子どもたちの感染症を予防するために清潔な飲料水を提供し、場合によっては学校の衛生環境も改善しています。これらの取り組みにより、就学率を向上させ、コーヒー生産地域における児童労働のリスクを軽減することを目指しています。

また、ボルカフェ・**ブラジル**は、顧客との協力のもと、農村部のコーヒー栽培地域にある学校 Escola Estadual da Fazenda Bela Vista にスポーツコートを建設しました。このプロジェクトは、体育の授業スペースを提供することで、地域の社会生活を改善することを目的としています。この施設は、生徒がスポーツを練習できるだけでなく、地域の集会や文化行事、祝賀会の場としても機能し、協力、団結、チームワークといった価値観を促進します。この取り組みにより、85の家族、150人の生徒、28人の学校職員に良い影響がもたらされ、彼らの生活の質全体が向上します。

アグロラボ： 昔からの農村流出問題への新しい取り組み

ペルーの農村部では、若者がより多くの機会を求めて家を出て都市部に移り住むのが一般的です。ボルカフェ・ペルーの国内チームは以前から、多くの若者が家の近くに進学の可能性を見いだせず、また農業の将来性にも疑問を抱いていることに注目してきました。都会は、大学やより広範な雇用市場の可能性で胸をときめかせるが、現実には、農村から都市への移住者の多くは、混雑した都市の高いコストに直面しながら、結局非正規雇用で働いているのです。

ボルカフェ・ペルーは、学校建設や改修を支援してコーヒー生産地の教育を促進する長年にわたる取り組みの延長として、同国北部カハマルカ地方に新しい教育形式の教育機関を建設しました。2024年に完成したエル・ワボ・アグロラボは、農村の状況に適した技能と技術に特に重点を置いたコミュニティ・スクールです。

アグロラボ・プロジェクトは、参加型プロセスを通じて実施される物理的構造と農業教育モジュールの両方を想定しており、国内のニーズに合致した専門的なトレーニング機会と社会開発を提供することを目的としています。

実際のカリキュラムでは、伝統的な農園技術を再評価し、持続可能性に重点を置きながら科学技術のトピックを導入しています。生徒たちは、栽培されている植物のデータを収集するスマート・ポットのシステムを実際に体験し、効率的な方法で作物を混植するスマート野菜圃場モデルの設置を学びます。その他の授業では、農業ビジネスのスキルと起業家精神を促進します。

ボルカフェ・ペルーの協力団体である非営利団体セミジャスによって設計された新しい校舎は、生徒だけでなく、コーヒー生産者である多くの地域住民も利用できるようになっています。

教育環境やカリキュラムを国内のニーズに合わせることで、若者たちが遠い都会ではなく、自分たちのコミュニティで将来を考えるようになることが期待されています。アグロラボはまだ初期段階ですが、国内の若者たちに、移住に代わる新たなアイデアやスキルを得る機会を提供しています。



ペルーのエル・ワボ・アグロラボの教室





拠点一覧



15 生産国の拠点

ブラジル
中国
コロンビア
コスタリカ
エチオピア
グアテマラ
ホンジュラス
インド
インドネシア
ケニア
パプアニューギニア
ペルー
タンザニア
ウガンダ
ベトナム

11 貿易拠点

オーストラリア
中国
ドイツ
イタリア
日本
シンガポール
韓国
スペイン
スイス（本社）
米国



Making coffee business better, together.

三方よしのコーヒービジネスを目指して

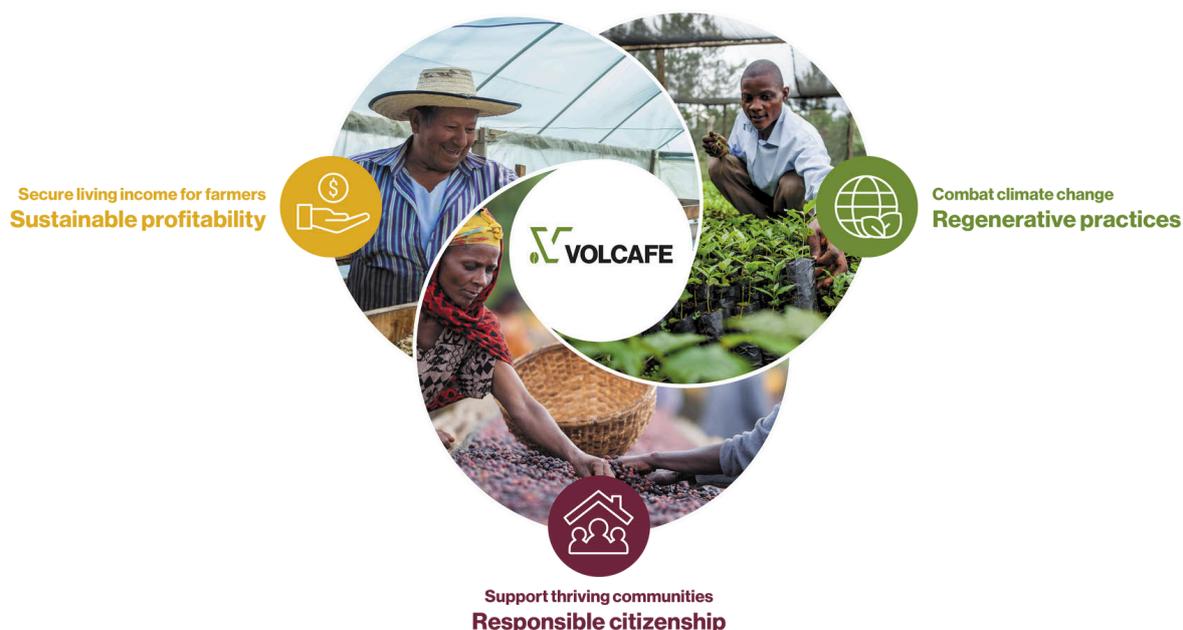
この冊子では、ボルカフェとそのパートナーが世界中のコーヒー生産国で実施しているインパクト・プロジェクトの一部をご紹介します。

より多くの農園を巻き込み、コーヒー・コミュニティにより大きなインパクトを与えるために、成長の余地は常にあります。

私たちと一緒に、より多くのことを実現しませんか？

私たちは、あなたの最も差し迫った課題に焦点を当てたプロジェクトと一緒にデザインすることができます。例えば、生計向上や生計収入の獲得、コーヒーのサプライチェーンの脱炭素化、ジェンダー平等の達成やコーヒー・コミュニティの子どもたちの教育促進などです。あなたの願望やアイデアを担当の汎用品担当者またはグローバル・サステナビリティ・チームにお伝えください。私たちは世界最高のコーヒー・パートナーでありたいと考えています。

私たちと共に、すべての人のための繁栄と持続可能なコーヒービジネスを目指しましょう。





Making coffee business better,
together.

ボルカフェ株式会社

〒650-0034

神戸市中央区京町80番クエイト神戸

volcafe.co.jp / volcafe.com

 **VOLCAFE**